

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

News



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

No.61
平成30年●月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・講演会のご案内 2
- ・新任及び退職医師のお知らせ 2

病院のトピックス

- ・病院機能評価3rd.G:Ver.1.1の認定を受けました... 3
- ・第62回 おおさか健康セミナーの報告 4
- ・第44回 法円坂地域医療連携フォーラムの報告... 5
- ・看護の日記念行事を終えて..... 7
- ・大阪医療センターの退院前後訪問..... 9
- ・インターネット外来予約専用ホームページのご案内... 10
- ・脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内... 11
- ・NHO PRESS ～国立病院機構通信～について... 11

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室 平成30年●月発行 61号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/>

[E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H30.5.1	耳鼻咽喉科医師	笹井 久徳	採用
H30.6.1	総合診療科医師	陳 若富	採用
H30.6.1	総合診療科医師	和田 万葉	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H30.6.3	皮膚科医師	加賀野井朱里	退職
H30.6.30	外科専修医	森川 希実	退職

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成30年10月20日(土)	第64回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：糖尿病内科	一般市民
平成30年10月27日(土)	第45回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：婦人科	医師及び 医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂（第45回法円坂地域医療フォーラムは緊急災害医療棟2階研修室開催です。）

アクセス 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ **問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

病院機能評価3rd.G:Ver.1.1の
認定を受けました



第62回 おおさか健康セミナーの報告

国立病院機構 大阪医療センター 脳卒中内科 科長 橋川 一雄

第62回おおさか健康セミナーを、平成30年4月21日午後2時から大阪医療センター緊急災害棟3階の講堂で開催いたしました。今回は、脳卒中内科が担当し、テーマを「認知症と寄り添う」とし、講演させていただきました。まず、当センター地域医療連携推進部長の巽啓司先生より開会の挨拶を頂戴いたしました。

講演の第1部は「認知症の診断：認知症の前兆を見逃さない」と云うテーマで、私、脳卒中内科科長の橋川が話をさせていただきました。まず、認知症は病名ではなく、かつて出来ていたことが出来なくなり、物忘れや判断力の低下から社会生活をおくるのに介助が必要になった状態であることを強調いたしました。つぎに認知症に至る代表的疾患であるアルツハイマー病についての解説を行いました。年相応の物忘れとアルツハイマー病に伴う物忘れの相違に、どんな症状があれば物忘れ外来などを受診すべきかということについて触れさせていただきました。最後に認知症の原因にはアルツハイマー病以外の疾患もあり、これらの疾患では性格変化など物忘れ以外の症状で始まることもあることを説明いたしました。

第2部は「気持ちを通わせる認知症ケア ～感じ合えるその想い～」のタイトルで市立豊中病院看護部 認知症看護認定看護師の大久保和実さまにお話しいただきました。大久保さまは、現在全国で1003名、大阪府では65名の認知症看護認定看護師の草分けの一人です。もし

あなたが認知症になったらどう感じるか、認知症の世界を実体験する朗読から始まりました。そして、認知症患者の気持ちを推し量ることが、一見不可解に見える認知症患者の行動の理解につながることを述べられ、病室でイスを重ねたりする行動をする入院患者がいたが、もとの仕事をしているつもりであったことが分かったという例を挙げられました。また、徘徊の原因が現在の生活の緊張感から逃れるためであった患者のお話をされた。途中で聴講者も参加する健康体操で皆様がリラックスされる場面もありました。続いて、認知症患者とのコミュニケーションづくりにおける笑顔の重要性を強調され、全員で笑顔を作る練習をし、お互いに笑顔で見合うことで場を和ませていただきました。最後に、認知症になってもその人の人格はそのまま残っていることを強調され、その気持ちや行動への理解の必要性を、認知症患者から子供への訴えと云う型式の「認知症の母の教え『千の恩』」の朗読で話は終わられました。全員がその気持ちを共有する感動的なご講演を賜りました。当日の参加者は、院外150名、院内5名の合計155名で、参加者には高齢者が多く、認知症への関心の高さの表れだと感じました。



第44回 法円坂地域医療連携フォーラムの報告

国立病院機構 大阪医療センター 救命救急科 科長 上尾 光弘

平成30年6月16日（土）午後3時から第44回法円坂地域医療連携フォーラムを難波のホテルモントレ グラスミア大阪にて開催いたしました。今回は救命救急科が担当し、災害医療と大阪府の救急医療への取り組みをテーマに二部構成で行いました。

第一部は、まず当院の前救命救急センター長で現医療法人恵泉会堺温心会病院 最高顧問 救急センター長 定光 大海 先生に「広域災害に備える～災害医療の取り組み～」と題してご講演を賜りました。南海トラフ巨大地震について先生が主任研究者として実施された厚生労働科学研究『南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究』のお話も盛り込み、医療機関の被害想定も含め直視に堪えないほどの仮想現実データを示していただきました。また、それに対して備えておくべき防災対策と医療対応についてわかりやすくまとめてお話していただきました。上町台地に立つ当院は幸い水没を免れる

第44回 法円坂 地域医療フォーラム

清宮 春昭の秋、先生におかれましては甚々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
 この度、「第44回法円坂地域医療フォーラム」を「救急・災害医療」をテーマとして、下記の要領にて開催いたしました。ご多用のことは存じますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。 敬白

▶ **『救急・災害医療』**

日時：平成30年6月16日（土） 15:00～17:30
 場所：ホテルモントレ グラスミア大阪 21階「スノーベリー」
 〒556-0017 大阪府大阪市浪速区湊町1-2-3 TEL:06-6645-7111

【司会】 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター
地域医療連携推進部長 巽 啓司

1.開会挨拶
独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2.講演

第一部 一般講演
【座長】 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター診療部長 木下 順弘

「広域災害に備える～災害医療の取り組み～」
医療法人恵泉会 堺温心会病院 救急センター長 定光 大海 先生

「災害関連で発症する深部静脈血栓症の診断と治療」
独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 救命救急科長 上尾 光弘

第二部 特別講演
【座長】 生野区医師会 副会長 綿谷 勝博 先生

「大阪府の救急医療に対する取り組み」
大阪府 健康医療部 保健医療室 岡本 潤 先生

3.閉会挨拶
独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 副院長 関本 貢嗣

※軽食を用意しております。
 ※当日は、ご参加いただいた確認のため、ご施設名・ご芳名の記載をお願い申し上げます。
 尚、ご記憶いただいたご施設名・ご芳名は医薬品の適正使用情報および医学・薬学に関する情報提供のために利用させていただきますこととなります。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。
 ※大阪府医師会生涯教育研修指定申請中

共催：独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター / 第一三共株式会社



可能性が高く、機能する最前線病院として極めて大きな役割を担うことになることを予見されました。二題目は上尾が「災害関連で発症する深部静脈血栓塞栓症の診断と治療」と題し、新潟県中越地震で車中泊を余儀なくされた40～50歳の中年女性6名が死亡するという痛ましい事例以降、災害時にエコーを用いたDVTスクリーニングが精力的に実施され、車中泊のみならず避難所生活でも下腿DVT発症の危険性が高く予防対策が重要であること、DVT発症時の抗凝固療法としては、血液検査モニタリングが不要な直接経口抗凝固薬(DOAC)が有用という話をさせていただきました。

第二部は生野区医師会副会長 綿谷 勝博 先生に座長の労をお取りいただき大阪府健康医療部保健医療室 岡本 潤 先生に「大阪府の救急医療に対する取り組み」と題して、大阪府の救急医療の問題点と取り組みについてご講演を賜りました。特に、迅速かつ的確な病院選定と搬送と搬送先選定困難例を減少する目的でスマートフォンアプリのORION (Osaka emergency information Reseach Intelligent Operation Network

system)を開発し、実施している取り組みをご紹介いただきました。救急隊が現場でORION上に傷病者の症候とバイタルサインを記載するとORIONの緊急度判定支援機能を発動して近隣の搬送先医療機関候補がリストアップされ病院選定が速やかにできる仕組みになっており、また、傷病者情報や医療機関情報はORIONを通じて現場と医療機関で共有できるそうです。ORION導入後、搬送困難例は減少してきているそうです。さらに、事例単位で救急隊の救急活動記録から医療機関の診断・予後情報を一元化して収集し、救急医療体制の分析を行っているとのことでした。

今回は院外から54名、院内から41名と多数の方々にご参加いただき有り難うございました。また、共催いただきました第一三株式会社には厚く御礼申し上げます。

次回の第45回法円坂フォーラムは、10/27(土)、婦人科担当にて大阪医療センターでの開催を予定しております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。



看護の日記念行事を終えて

看護学校 看護の日記念行事 実行委員長 藤本 真緒

毎年5月12日は、ナイチンゲール生誕にちなんで「看護の日」が制定されています。当校でも5月12日（土）に「看護の日記念行事」を行いました。

2018年度の看護の日記念行事は、日本の超高齢社会に焦点を当て、看護学生としての学びを生かし、自分たちができること、現実的で取り入れられる対策を周りの人に伝えたいと考えました。そして、伝えることで一般の方々にも超高齢社会であることを自覚してもらい、これから変わっていく未来につなげていき、自分のためにも人々のためにもよりよく過ごすためのきっかけとなる一日にしたいというねらいを掲げ、「伝えよう今私たちにできること ～身近に感じる看護～」をテーマに実施しました。



今回は、高齢者体験を通して高齢者について知ってもらうブースや、疾病予防や健康増進に必要なことを学習して体操を行うブース、ゲームを通して介護保険や医療保険などの制度を楽しく理解してもらうブース、手浴や血圧測定などの体験を通して看護を身近に感じてもらうブースなど、4つのブースを企画しました。

1つ目の「ようこそ高齢者の世界へ！」ブースでは、歳をとるとはどのようなことか、身体機能の変化や特徴、生活への影響、そして高齢者が困っている場面からどのように関わっていくことができるかをポスター展示し、来場者の方々に説明をしました。また、体験としては高齢者体験スーツを用いた高齢者疑似体験をして頂きました。

2つ目の「つながろう」ブースでは、高齢者の歩んできた歴史表やクイズ、ボランティア活動やニュース、医学的根拠に基づいた“おばあちゃんの知恵袋”の紹介をしました。体験では、ロコモティブシンドロームを予防する体操や高齢者のコミュニケーション体験をして頂きました。

3つ目の「備えよう！初耳学」ブースでは、地域包括ケアシステムや医療保険、介護保険制度についてをポスターを展示したり、体験では事例に基づいて訪問看護における介護保険、医療保険制度についてフローチャート形式のゲームを実施しました。

4つ目の「看護のぬくもりを感じてみよう」ブースでは、手浴がもたらす効果、血圧測定やバイタルサインからわかること、少しの工夫で身体が楽になる方法を紹介し、実際に手浴、血圧測定の体験をしていただきました。



当日はたくさんの方々に来ていただき、「体験を通して、未来の看護の重要性を学べてよかった」や「今後の日本の課題を再認識できるいい機会になった」、「身近な看護を知れてためになった」など多数のご感想をいただき私たちが考える看護について伝えることができ、達成感を持って無事に終えることが出来ました。

今回大きな行事を企画、運営することで学生全員が協力し、学生同士の団結力が高まりました。この学びを今後の学習や学生生活に活かしていきたいと思います。そして、来年はさらに楽しく看護を身近に感じていただけるような機会にしていきたいと思います。ご来場いただきました皆様本当にありがとうございました。



大阪医療センターの退院前後訪問

国立病院機構 大阪医療センター 地域連携室 副看護師長 八田 好子

当院では患者・家族が安心して在宅療養に移行できるよう、病棟看護師が患者さんの居宅に訪問をしています。退院前には、現在の身体的機能で生活しやすい居宅環境に整えられているか、退院後は、医療処置を行っている患者さんが、居宅において適切な方法で行えているか、不安なく生活ができているか等、実際の場面を確認しています。その際には、在宅医療機関とも情報交換を行いながら、連携を図っています。最近、退院前後訪問を行った2事例について紹介したいと思います。

先日、退院前訪問を行ったAさんは、骨折により入院後ADLの低下が著明でした。独居であったため、家族からは転院を勧められていました。しかし、本人は自宅退院への思いが強く、私達は退院前訪問で住環境を確認してみる事を提案しました。Aさんと共に自宅を訪問したのですが、玄関や室内には段差が多く手すりのない住環境でした。そこで、ケアマネジャー、福祉用具の方と手すり、スロープを設置する、靴箱を利用する、横向きにあがる等いろいろな工夫を一緒に考え、暮らしやすい環境について検討を行いました。Aさんは訪問後、「ここまでしてもらったら、明日からもっとリハビリ頑張らなあかんね」と退院に向けてそれまで以上の意欲を見せ、無事自宅退院へと移行する事ができました。

次に退院後訪問を行ったBさんは、大腸癌によりストーマ造設された患者さんです。入院中にストーマ管理について本人に指導しましたが、手技獲得が不十分であったため、訪問看護師を導入し自宅退院となりました。退院前カンファレンスでは在宅医、訪問看護師にも参加してもらい、Bさんのストーマ手技を見てもらいました。退院後、皮膚トラブルを認めたため、退院後訪問を提案しました。皮膚、排泄認定看護師とも連携を図り、Bさんに合った皮膚保護剤を提案し、訪問看護師にも継続看護を依頼しました。その後、問題なく経過されていることを訪問看護師、本人から確認

することができました。

今後、医療ニーズが高い患者さんが安全に安心して在宅療養に移行し、在宅療養を継続できるようにするためには、在宅医や訪問看護師、ケアマネジャーとより連携を強化していくことが重要です。患者さんの住環境、生活の場を捉え、入院早期から退院に向けて関わっていくこと、退院前後訪問を通して、具体的な支援を積極的に行っていくことを当院は続けていきたいと思っております。今後とも当院との連携をよろしくお願い致します。



【玄関前の段差にスロープを設置】



【浴槽に入る手すりを設置】



【ケアマネジャーとサービス内容について話し合い】

インターネット外来予約専用ホームページのご案内

国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部長 巽 啓司

地域の病院、診療所の先生方におかれましては、平素より地域医療連携の充実にご協力いただきありがとうございます。当院では法円坂地域医療フォーラムなどを通して最新の情報共有に努めておりますが、がんや生活習慣病はもとより高齢者の健康寿命を延ばすためにも、基幹病院と地域の先生方との連携はますます重要となってきております。

さて、当院では昨年よりインターネットを通じた外来予約システムを立ち上げ、貴院の診察室でリアルタイムに外来予約をお取りいただけるようになりました。おかげさまでご紹介は徐々に増えておりますが、今年度はさらにご利用いただきやすいシステムへと改良を進めてまいります。

その第一歩といたしまして、このたび『インターネット外来予約専用ページ』を作成いたしました。大阪医療センターのトップページよりワンクリックで専用ページに移動でき、ログインやマニュアルのダウンロードが可能となっております。ただし、セキュリティ確保のためログインには貴院専用のIDとパスワードが必要となりますので、お手数ではございますが下記お問い合わせメールアドレスまでご連絡ください。早急にIDとパスワードをお届けいたします。

今後とも大阪医療センターとの地域連携にご協力を賜りますようお願い申し上げます。



なお、従来通りのFAX予約も受け付けておりますので、あわせてご利用ください。

お問い合わせ先
 大阪医療センター 地域医療連携室
 電話：06-6946-1331（代表）
 メール：comonh@onh.go.jp

脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という142の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



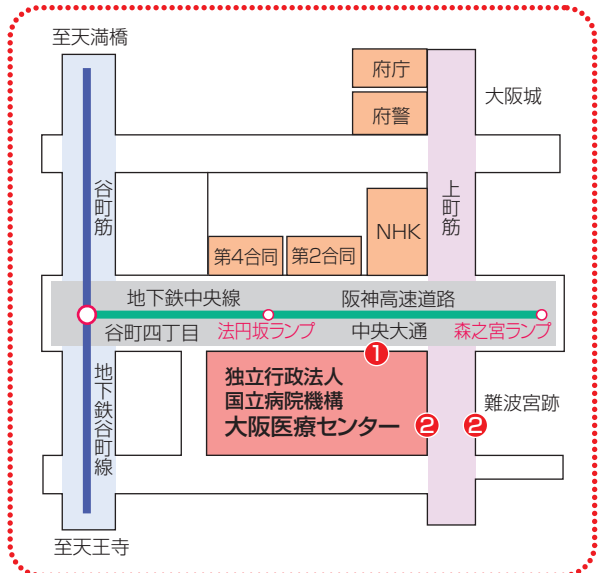
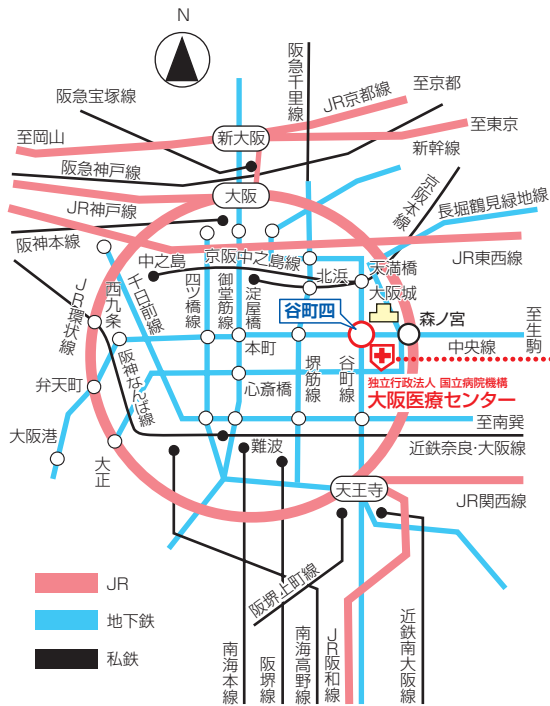
NHO PRESS

検索

QRコード



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。